

【事業名】 認知症サポーターステップアップ事業

認知症を考える会 あいづの種	高齢福祉課
(1)協働の相手方と信頼、尊重し合う関係を意識しながら企画事業を行うことができましたか。	
講座、講演会、視察研修の開催にあたって、十分に連絡を取り合い、役割を分担して協働できました。	お互いの信頼の元、より良い事業となるよう疑問点や改善点などをその都度相談しながら行うことができました。
(2)事業の課題認識と目的を協働の相手方と共有することができましたか。	
話し合いを密に行って、常に目指すところを確認し合えました。	常に課題と目的を確認しながら事業を行いました。
(3)自らは、当初想定した役割を果たすことができましたか。	
求められる専門性を十分に発揮することで役割を果たすことが出来たと思っています。	お互いの強みを確認しながら、役割について常に意識し事業を遂行しました。
(4)事業の進捗状況や情報を協働の相手方と共有することはできましたか。	
講座、講演会、視察研修の準備状況や参加者の状況をその都度報告し情報共有できました。	講座、講演会、視察研修の進捗状況等について、適時確認し、状況や情報を共有しました。
(5)協働の相手方と互いの特性を活かすことができましたか。	
ステップアップ講座では、さまざまな職種の講師陣を集め、また講演会には講師に認知症当事者を招聘するなど、求められる専門性を十分に発揮し、その役割を果たすことができたと思っています。また、周知活動や書類事務について行政が尽力してくれました。	講座の内容や講師の選定及び調整等は協働の相手方が行い、事業の周知や参加者の募集等を担当課が行い、お互いの強みが活かされたと思います。
(6)この事業を協働により実施することで効果は上がりましたか。	
特に講演会では協働することで周知活動の範囲が大きく広がり、集客の効果は絶大なものがあったと思っています。	企画の段階から認知症ケアの専門職と話し合いを重ねることで、今後の認知症サポーター養成事業の在り方について考えを深めることができました。

(7)その他、この事業を通じて感じたことや、相手方への要望、制度の改善策等について

- 認知症サポーターは増えていますが、90分間の講座だけでは具体的支援には結びつきにくいという声が多くあります。「あいつの種」は認知症を考える会です。正しい知識と理解を広め、自分が認知症になっても「安心して住み続けられる地域づくり」につながればという思いで活動しています。そのため、何らかの機会を得て、サポーターとつながることが出来れば、地域に様々な副産物を生み出すことが出来ると今回の事業を通して確信しました。
- 2年間の協働事業を通して、受講者が具体的な支援行動が出来るようになるまでには年単位の支援が必要だということがわかりました。また、市で行うステップアップ講座にサポーターが地域において具体的な活動が出来るように、地域における“お互いさまの支援の醸成”を目指すプログラムがあるのではないかと考えます。
- たねカフェ七日町は、スタッフ不足や資金不足等で、この先どうする？という状況にありましたが、この事業への参画を通して、広く市民に周知していただき、さまざまな専門職を巻き込む活動につながりました。
- 「あいつの種」は今後も講座を続けていく予定です。認知症カフェも含めて助成があると大変有難いです。

ステップアップ講座に参加された方々は、認知症の知識を習得したいという高い学習意欲を持つ方々が多く、認知症ケアに携わる様々な講師陣の講話を聴講できたことは受講生のスキルアップにとっても効果が高かったと思います。昨年度から受講されていた方々の中には、地域支援ネットワークボランティアに登録し、ボランティアとして活動を始める方や、町内で高齢者を集めてサロンを開く方もおり、少しずつ行動を起こし始めています。行動を起こすには、ある程度の時間とスキルが必要であり、来年度は、これまでの協働事業の成果を引き継ぎながら、内容を精査しつつステップアップ講座を実施していく予定であり、今後も認知症ケアの専門職の方々と一緒に考え実行していきたいと思っています。